は相互に補償的、拮抗的に複雑な作用をすると考えられる。これら苗の稲苗は木下の生長・収量にまで影響を及ぼし、生育が抑制された苗はそうでないものに比べていくつも収量を示した。なお設定量の K2O/N 比率と収量が負の相関を示すことが認められた。晚期栽培

水稲の立枯れ現象について

立石 聖男
（長崎県農業試験場）

昭和30年10月上旬から県下各地に点々と発見した
水稲の立枯死は、部分的であるが発生地域に於ては相当の被害を被り、その発生率は30%以上と推定され
た。かかる現象の直接原因は、昭和30年10月6日からの約1週間
に亘って発生した単独からの乾燥風によつて、地上部
に過剰な蒸散作用が行われた為も考えられ、根は逐層の
原因に劣る機械的害のため、水分の吸収が十分なら
ず、地上部と地上部の水分需給が不均衡となる立枯れ
現象を呈したものと考えられる。

地下部の水分吸収不良の原因として(1) 根部の発育
特に地中面附近の細根が少ないと(2)被害株は健全株に比
較すれば根の活力が弱く、根の基部が乾燥されている
ため。福岡県における稲作区では過去多数に発生が多く、罹病
株、線虫の発生株は被害大であった。これらは立枯れの直接原因とは考えられず、単独株は複数的に被害
を助長せしめたものと考えられる。品種間差異は認められ
ない。

水稲苗期現象発生当時の気象に関する2、3の調査

水稲苗期現象発生当時の気象を
調査した。（発生期：昭和30年10月第2半期）

北九州地域における水稲苗期現象発生当時の気象を
調査した。発生期：昭和30年10月第2半期

（九州農業試験場）

小麦新品种「エタカコムギ」について

小森 哲・井手義人・小西信朗・吉富研一他
（九州農業試験場）

昭和29年度に育成された「エタカコムギ」について紹
介する。生産：昭和16年南総85号×南総78号、九
州支倉安配、昭和25年西海96号命名、昭和30年
8月小麦新品种に登録され、エタカコムギと命名。

稲作に採用された。 NIL、整調。

特性：成熟期は農林61号と同程度の中生種、草丈
は農林61号より短い、直立稲で株は密、穂長は
稈短いが穂質は密、分けつは旺盛で稈質、子実は大

数で粉質、品質良好、赤穂病には立枯しない。赤穂
病、白穂病、黒穂病には強い。収穫性程度は高い。
収量：農林45号より多く、農林61号と比較
しても多収の地力がある。特に肥沃地に於いて多収
を示す。熊本県における現地試験の結果は21.1倍中
14.7倍で農林61号より多収であった。

（九州農業試験場発行・4巻3号に記載予定）

麦類種子低温処理試験

野田 健児・長木 和典
（九州農業試験場）

1948年から1956年に麥類種子低温処理の収量に対する効果があるかどうか、また生育過程に対する影響のどちらかであるか。試験研究を行った。その要
点をとるべく収量及び収量増加要素に対する有意的な
差は考えられない。生育過程においては幼穂の分化発
達、出穂期等に対しては多少促進的な効果がみられ

（第8巻 第10号 昭和31年10月）